

平成 25 年度 流域管理の取組結果表

No. 67 (一)

東北森林管理局

取組名	森林病虫害等防除由利地域連絡協議会 (継続)
流域名	子吉川流域
分類番号	カ-28
実施箇所及び実施日	・由利地域振興局会議室 (連絡調整会議) 平成 25 年 5 月 30 日 (木)
取組の背景及び必要性	松くい虫、ナラ枯れが発生していることから、森林病虫害防除を推進することにより被害の拡大を防止し、森林資源の保護、自然環境の保全を図る。
取組の内容	流域内の松くい虫被害に対し、適期に徹底した薬剤散布を実施するため、連絡調整会議を開催し、民・国連携した防除体制を確立。また、ナラ枯れに対し、民・国一体となったパトロール計画を設定するとともに、効果的、効率的な防除対策を講じるため、ワーキンググループを開催し「ナラ枯れ防除実施方針」について検討を深めた。
国有林担当部局・役割	由利森林管理署 (パトロール・予防・防除)
連携協働相手先・役割	秋田県・由利本荘市、にかほ市・本荘由利森林組合・JR 東日本 (パトロール・予防・防除)
取組の結果、反響、今後の課題等	森林病虫害防除対策の必要性や国有林の対策について理解が得られたほか、民・国一体となった防除が出来た。松くい虫被害は減少傾向にあるものの、平成 25 年度以降についても地域住民の理解と協力を得ながら予防・防除を推進する。ナラ枯れについては監視パトロールを強化し、ナラ枯れ防除方針に基づき適切な防除対策を実施する必要がある。
PR の実施状況及びその期待する効果	PR : 由利地域連絡協議会等で取り組み状況を説明。報道機関及び市広報誌等へ情報提供。隣接町内会等へのチラシ配布。 効果 : 国有林が進める森林病虫害対策に地域住民の理解と協力が得られる。

【参考資料】

取 組 名 森林病虫害等防除由利地域連絡協議会 (継続)

○薬剤の地上散布 (松くい虫)



○薬剤の地上散布 (松くい虫)



○破砕処理 (松くい虫)



○破砕処理 (松くい虫)



○伐倒くん蒸処理 (ナラ枯れ)



○伐倒くん蒸処理 (ナラ枯れ)



平成 25 年度 流域管理の取組結果表

No. 68 (当初計画 : No. 67)

東北森林管理局

取組名	低コスト木材生産技術現地検討会 (継続)
流域名	子吉川流域
分類番号	ア-11、イ-15、ウ-16、オ-21
実施箇所及び実施日	・秋田県由利本荘市地藏沢国有林 平成25年9月13日 (金)
取組の背景及び必要性	子吉川流域の森林林業を取り巻く状況は依然として厳しい中、人材の育成や国産材の利用拡大など本格的な森林・林業の再生に向け、民国連携した林業生産の低コスト化に取り組んでいく必要がある。
取組の内容	路網整備や高性能林業機械の導入を通じ労働生産性の向上を図っていくことが、林業関係者における喫緊の課題となっているため、当流域の関係者による現地検討会を開催。県や地元自治体、子吉川流域林業活性化センター、森林組合、各林業事業体が参加。
国有林担当部局・役割	由利森林管理署 (企画・進行・資料準備等)
連携協働相手先・役割	秋田県由利地域振興局、子吉川流域林業活性化センター
取組の結果、反響、今後の課題等	国の施策により昨年からの民有林の搬出間伐が増大したが、国有林の作業仕組みと基本的に相違はなく、先山ではハーベスタを使用して伐倒・木寄せ・造材を極力行う作業システムを選択。子吉川流域の各事業体ともハーベスタが機動的に動ける森林作業道づくりを目指している状況。
PRの実施状況及びその期待する効果	PR : 各種会議を通じ周知。 効果 : 民国連携による施業の効率化とともに、森林整備の計画的実施が図られる。

【参考資料】

取組名	低コスト木材生産技術現地検討会（継続）	
○主催者挨拶（由利森林管理署長）		○伐倒作業の説明（森林組合） 
○ハーベスタによる作業		○現場で意見交換 
○座学形式の講演（県振興局）		

平成 25 年度 流域管理の取組結果表

No. 69 (一)

東北森林管理局

取組名	一般市民を対象とした森林環境教育（継続）
流域名	子吉川流域
分類番号	カ-31
実施箇所及び実施日	・秋田県由利本荘市「桑ノ木台湿原」 平成25年6月13日（木）
取組の背景及び必要性	一般市民が森林・林業、自然環境に関心がありニーズが高い。
取組の内容	一般市民を対象に新聞等で参加者を募集して実施。 【春】新緑の桑ノ木台湿原散策ツアー 桑ノ木台湿原（レク森）、鳥海ブナ林施業公園、竜ヶ原湿原の散策 25名参加
国有林担当部局・役割	由利森林管理署 （企画・募集・案内・資料準備）
連携協働相手先・役割	
取組の結果、反響、今後の課題等	事前の問い合わせを含め申込者が定員を上回る人気となっていた。一般市民が森林・林業、自然環境に関心がありニーズが高いが、民間団体において多くのツアーが組まれており、今後は直接ツアーを実施するのではなく、森林環境教育を行う指導者の育成に努めていく。
PRの実施状況及びその期待する効果	PR：プレスリリース 効果：募集記事掲載等により、多くの国民に森林・林業、国有林野事業への理解が図られた。

【参考資料】

取組名 一般市民を対象とした森林環境教育（継続）

○桑ノ木台湿原



○桑ノ木台湿原



○竜ヶ原湿原



○竜ヶ原湿原周回コース



平成 25 年度 流域管理の取組結果表

No. 70 (一)

東北森林管理局

取組名	小中学生のための森林環境教育（継続）
流域名	子吉川流域
分類番号	カ-31
実施箇所及び実施日	<ul style="list-style-type: none"> ・秋田県由利本荘市水林国有林「遊々の森」 平成25年9月27日（金） ・秋田県由利本荘市水林国有林 平成25年10月30日（水）
取組の背景及び必要性	学校からのニーズ、要望が高いことから小中学生のための森林環境教育を推進し、次代を担う子どもたちへ森林の大切さを理解してもらう。
取組の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・秋田県由利本荘市立鶴舞小学校5年生 「遊々の森」において先輩たちの植樹した広葉樹に巻き付く「つる切り」を行うとともに、当署職員が先生となって森林の働きに関する学習会を実施。 ・秋田県由利本荘市立道川小学校5年生 「森林づくりの集い」に参加し、松くい虫被害箇所の海岸林にクロマツを植栽。
国有林担当部局・役割	由利森林管理署 （講師・案内・資料準備・作業指導）
連携協働相手先・役割	由利本荘市教育委員会、関係小学校、秋田林業土木協会、森林ボランティア団体 （事前教育・引率・教材準備・植樹指導）
取組の結果、反響、今後の課題等	自然観察や植樹体験を行い、森林の大切さと役割、松くい虫被害対策、国有林の果たしている役割等について学習。教育委員会、学校・生徒の反響も大きく、継続した開催の要望が強いことから、今後とも森林環境教育の充実に努める必要がある。
PRの実施状況及びその期待する効果	PR：プレスリリース、学校を通じた保護者へのPR 効果：国有林の取り組みへの評価が高まり、森林や国有林の果たしている役割等について理解の増進が図られる。

【参考資料】

取組名	小中学生のための森林環境教育（継続）
<p data-bbox="183 427 654 465">○鶴舞小学校（つる切り作業）</p> 	<p data-bbox="815 427 1209 465">○鶴舞小学校（植樹指導）</p> 
<p data-bbox="183 927 746 965">○鶴舞小学校（森林の働きに関する学習会）</p> 	<p data-bbox="815 927 1209 965">○鶴舞小学校（記念写真）</p> 
<p data-bbox="183 1429 654 1467">○道川小学校（クロマツ植樹）</p> 	<p data-bbox="815 1429 1278 1467">○道川小学校（緑の誓い朗読）</p> 

平成 25 年度 流域管理の取組結果表

No. 71 (当初計画 : No. 68)

東北森林管理局

取組名	ボランティアと連携した松くい虫被害林の再生 (継続)
流域名	子吉川流域
分類番号	カー 32
実施箇所及び実施日	・秋田県由利本荘市水林国有林 平成 25 年 10 月 30 日 (水)
取組の背景及び必要性	水林地帯の海岸林は、松くい虫被害が著しかったため、森林再生による公益的機能の増進が地域から求められていた。このため、ボランティア団体等と連携して地域と一体となった再生活動を実施。
取組の内容	<p>【これまでの取組内容】 森林ボランティア団体等と連携し、地元小学校や市民団体、一般市民の参加による植樹会を実施し、これまでクロマツや広葉樹 (郷土樹種) を植栽している。なお、平成 20 年度からは名称を「森林づくりの集い」として開催。</p> <p>【平成 25 年度の取組内容】 由利本荘市や森林ボランティア団体外と共催。市立道川小学校 5 年生や一般市民等 105 名の参加によりクロマツ 1,050 本の植樹を実施。</p>
国有林担当部局・役割	由利森林管理署 (企画・準備・進行・指導・資料準備)
連携協働相手先・役割	由利本荘市、道川小学校、森林ボランティア団体 (事前学習・引率・準備・指導)
取組の結果、反響、今後の課題等	プレスリリースを行ったところ、秋田魁新聞で報道されるなど反響あった。今後も森林ボランティア団体等と連携を図り、松くい虫被害森林の再生が市民活動となるよう積極的な働きかけを行う。
PR の実施状況及びその期待する効果	PR : プレスリリース 効果 : 森林・林業の果たしている役割、国有林野役割等について理解の増進が図られ、地域と一体となった活動が展開できる。

【参考資料】

取組名	ボランティアと連携した松くい虫被害林の再生（継続）
○クロマツ植樹	○クロマツ植樹
○記念標柱埋設	○参加者記念写真撮影

平成 25 年度 流域管理の取組結果表

No. 72 (一)

東北森林管理局

取組名	国有林材の利用促進並びに P R (継続)
流域名	子吉川流域
分類番号	カ-27
実施箇所及び実施日	<ul style="list-style-type: none"> ・秋田県由利本荘市木材流通センター 平成 25 年 10 月 20 日 (日) ・秋田県由利本荘市鶴舞会館外 平成 25 年 10 月 26 日 (土) ~ 27 日 (日)
取組の背景及び必要性	木工品の展示・販売により国有林材の利用促進を P Rするとともに、写真パネルの展示コーナーを併設し防災情報(治山事業関連)や国民の森林を P Rする。
取組の内容	「本荘由利森林組合まつり」、「由利本荘市米まつり」に職員手づくりの木工品の展示販売を行うとともに、治山事業による森林復旧状況・森林環境教育活動等の写真パネルを展示して情報を発信に努めた。
国有林担当部局・役割	由利森林管理署 (木工品展示販売・写真パネル展示案内)
連携協働相手先・役割	本荘由利森林組合、由利本荘市 (企画・準備・進行等)
取組の結果、反響、今後の課題等	治山事業による森林復旧状況・森林環境教育活動等の取り組みについて、入場者から質問を頂くなど、国有林に対する関心が高まった。
P Rの実施状況及びその期待する効果	P R : 由利本荘市広報誌による行事案内 効果 : 国有林材の利用促進並びに国有林の取り組みに対する理解が深まった。

平成 25 年度 流域管理の取組結果表

No. 73 (当初計画 : No. 69)

東北森林管理局

取組名	ボランティアによる森林づくり支援 (継続)
流域名	子吉川流域
分類番号	カ-32
実施箇所及び実施日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 由利本荘市田尻国有林 平成 25 年 7 月 2 日 (火) ・ 由利本荘市水林国有林 平成 25 年 7 月 18 日 (木)
取組の背景及び必要性	水林地区海岸林は甚大な松くい虫被害があったが、ボランティアの森林再生活動への関心が高いことから、フィールドの提供と技術指導の支援を行い、地域と一体となった森林整備を進める。
取組の内容	<p>【これまでの取組内容】</p> <p>平成 17 年度に設立された森林ボランティア団体 (水林海岸防備林を松くい虫被害から再生する会 (以下、「再生する会」) による、クロマツの植樹や下刈り作業等の活動を支援。なお、「再生する会」は 6 年間の活動により被害箇所の植樹がほぼ完了したとして、平成 21 年度の活動を最後に会を解散し、新たに「本荘海岸林を守る会」が結成 (平成 22 年度) され、引き続き連携を確認。</p> <p>【平成 25 年度の取組内容】</p> <p>「本荘海岸林を守る会」によるクロマツ植樹箇所の下刈り作業 (0.20ha) および由利森林管理署と共催した海岸林のクリーンアップを実施。</p>
国有林担当部局・役割	由利森林管理署 (フィールドの提供、技術安全指導)
連携協働相手先・役割	本荘海岸林を守る会 (役務の提供)
取組の結果、反響、今後の課題等	森林ボランティア団体の活動が、新聞等で報道されることにより、ボランティア団体の活動意欲が高まる。
PR の実施状況及びその期待する効果	PR : 写真パネルによる展示 効果 : 地域住民に国有林の取り組みが理解され、評価が高まった。

【参考資料】

取組名	ボランティアによる森林づくり支援（継続）	
○森林づくり活動（下刈作業）		○森林づくり活動（下刈作業） 
○森林づくり活動（参加者記念撮影）		○森林づくり活動（署長あいさつ） 
○クリーンアップ活動		○クリーンアップ活動 

平成 25 年度 流域管理の取組結果表

No. 74 (一)

東北森林管理局

取組名	高校生のための森林環境教育（継続）
流域名	子吉川流域
分類番号	カ-31
実施箇所及び実施日	<ul style="list-style-type: none"> ・秋田県由利本荘市水林国有林 平成25年4月23日（火）A組 平成25年5月8日（水）B組 ・秋田県にかほ市中島台レク森 平成25年10月9日（水）
取組の背景及び必要性	矢島高校の総合学習（「地域の自然理解と体験学習」）を支援し、国民の森林としての理解の醸成を図る。
取組の内容	<p>【森林教室】 同高校の1年生を対象にA組とB組の2回に分けて、松くい虫被害箇所に実生更新したクロマツ林の本数調整伐を体験。 ※体験学習</p> <p>【自然観察と森林浴】 春の体験学習に参加した1年生を対象に、鳥海自然休養林にある「獅子ヶ鼻湿原」の自然観察と森林浴を実施。</p>
国有林担当部局・役割	由利森林管理署 （企画・案内・指導・資料準備）
連携協働相手先・役割	秋田県立矢島高校 （事前教育・引率）
取組の結果、反響、今後の課題等	体験学習と自然観察に参加した生徒の一人は、「伐採を進めるうちに林の景色が見渡せるようになり、達成感を感じた」と初めての林業体験を振り返っていました。学校からは継続したプログラムの実施について要望があり、次年度以降も更に内容を充実して取り組む必要がある。
PRの実施状況及びその期待する効果	PR：プレスリリース 効果：国有林の取り組みへの評価が高まるほか、森林の果たしている役割、国有林の役割等について体験学習を通じて理解が図られる。

【参考資料】

取組名	高校生のための森林環境教育（継続）
<p>○森林教室説明</p> 	<p>○森林教室（天然生クロマツ林整備）</p>  <p>○森林教室（天然生クロマツ林整備）</p> 
<p>○自然観察と森林浴（鳥海自然休養林）</p> 	<p>○自然観察外説明</p> 

平成 25 年度 流域管理の取組結果表

No. 75 (当初計画 : No. 70)

東北森林管理局

取組名	松林健全化ボランティア作業の支援 (継続)
流域名	子吉川流域
分類番号	カ-32
実施箇所及び実施日	・秋田県由利本荘市石脇字田尻海岸林 平成25年11月16日 (土)
取組の背景及び必要性	化石燃料等の普及により、松林内の落枝・落葉が薪などとして利用されなくなり、堆積した落葉等が林地を肥沃化させている。このため広葉樹が侵入成長し、松林は菌根菌が減少して生理的に脆弱化し、白砂青松の景観が失われる可能性がある。
取組の内容	<p>【これまでの取組内容】 平成20年11月に秋田県由利地域振興局及び由利本荘市が主催し、松林内の侵入広葉樹の除去事業を実施した跡にボランティアによる表土掻き起こし作業を実施。平成21年度より由利森林管理署及びにかほ市が主催団体に加わる。</p> <p>【平成25年度取組内容】 由利本荘市及びにかほ市の海岸林において、森林ボランティア団体や一般市民と連携し、松林内の枯れ枝等の回収と表土掻き起こしを実施。(2会場同時開催)</p>
国有林担当部局・役割	由利森林管理署 (準備・安全作業指導)
連携協働相手先・役割	由利地域振興局、由利本荘市、にかほ市 (企画・参加者募集・準備・安全作業指導)
取組の結果、反響、今後の課題等	国有林・民有林の関係行政機関が主催し、一般市民やボランティア団体と連携して健全な松林を目指す取り組みは、新聞等でもその効果が報道されるとともに、松林に隣接する地域住民や市民から評価されていることから、引き続き、民・国が連携して取り組む必要がある。
PRの実施状況及びその期待する効果	PR : プレスリリース、市広報誌への情報提供 効果 : 国有林と民有林を管轄する行政が連携して取り組むことへの評価が期待できる。

【参考資料】

取組名 松林健全化ボランティア作業の支援（継続）

○開会セレモニー



○開会セレモニー



○落ち葉掻き等作業



○落ち葉掻き等作業



○落ち葉掻き等作業



○落ち葉等運搬



平成 25 年度 流域管理の取組結果表

No. 76 (当初計画 : No. 71)

東北森林管理局

取組名	「あきぎんの森」協定に基づく森林再生（継続）
流域名	子吉川流域
分類番号	カ-32
実施箇所及び実施日	・秋田県由利本荘市水林国有林「あきぎんの森」 平成25年8月3日（土）
取組の背景及び必要性	平成21年7月13日に秋田銀行創業130周年事業の一環として、松くい虫被害を受けた水林国有林の再生を目的とした「森林ボランティアの森林づくり活動に関する協定書（愛称「あきぎんの森」）」が締結された（面積0.77ha）。なお、本協定は通達の改正により、「社会貢献の森」と名称変更し、平成23年5月31日に再協定（協定期間平成26年3月末まで）。
取組の内容	<p>【これまでの取組内容】 秋田銀行及び関連会社の役職員とその家族約490名が参加して、全体面積0.77haのうち0.40haにクロマツ2,700本（うち、抵抗性マツ250本）を植栽。</p> <p>【平成25度の取組内容】 秋田銀行役職員等90名が参加し、協定区域内に植栽したクロマツ林の下刈り作業を実施。</p>
国有林担当 部局・役割	由利森林管理署 （準備・指導助言）
連携協働相手先・役割	秋田銀行 （企画・準備・進行・プレスリリース・物品役務提供）
取組の結果、反響、今後の課題等	森づくり活動に参加した社員からは「年々大きくなるクロマツに負けないぐらい、自分も日々の仕事に精進して成長したい」との声があった。なお、今年度からは地域の取組ということで地元の行員と家族による活動になっている。
PRの実施状況及びその期待する効果	PR：プレスリリース 効果：企業による森林づくり活動を支援することにより、対象とする水林海岸林の飛砂防備など多面的な機能を発揮できる森林への再生ができる。

【 参 考 資 料 】

取 組 名	「あきぎんの森」協定に基づく森林再生（継続）
<p data-bbox="204 459 550 495">○クロマツ下刈り作業</p> 	<p data-bbox="831 459 1177 495">○クロマツ下刈り作業</p> 
<p data-bbox="204 958 550 994">○クロマツ下刈り作業</p> 	<p data-bbox="831 958 1107 994">○参加者記念写真</p> 